



中村 忠行 議員

# 町広報に求人広告を

## 【回答】伝言板スタイルであれば可

**農地の保全策は**  
**中村忠行議員** 農地を農地として管理できる体制は  
**佐藤産業課長** 平成28年の改正農業委員会法施行により、農業委員会での最も重要な活動に「農地の利用の最適化の推進」が位置づけられた。  
**農業委員会**では、農地パトロールの実施等により農地の保全が危ぶまれる箇所を発見した場合、所有者へ利用の意向を確認し、必要に応じて農地の受け手となる耕作者のマッチングを行うなど、事務局と連携して農地を活かす方法を検討して

いる。  
 平成29年、8名の農業委員に加え、新たに4名の「農地利用最適化推進委員」を委嘱し、農地を農地として管理する基礎となる活動を行っている。  
**中村議員** 農業振興計画は、「まち・ひと・しごと総合戦略」から変更はあるか。  
**産業課長** 「まち・ひと・しごと総合戦略」と「町農業振興計画」の双方で最も密接に関係する部分は、総合戦略の重点プロジェクトの一つである「地域安定雇用プロジェクト」と考えられる。  
**「町農業振興計画」**においては、農業者の高齢化や、担い手問題が課題となっている調査結果を基に、様々な立場や年齢の人々の農業参加を促すことなどが記載されており、子育てや介護などによって弾力的な勤務体系を希望する主婦層や、まだまだ元気で軽作業な

に従事できる高齢者などが、新しい農業経営者あるいは農業就労者となることに期待しており、「地域安定雇用プロジェクト」に掲げられている「農業と農村の再生による雇用の創出・拡大」にも繋がる。また、町が取り組んでいる、金山型CCRC構想での現役世代のふるさと帰郷も含めながら、人材確保に取り組むという、最終的な目標や目的は共通していると考えている。  
 新たな視点での振興策については、予算措置等も考慮し、具体的には平成31年度事業からと考え、今後、農業部会等で、事業展開について検討を行っている。

**中村議員** 実証事業の検証結果の公表は。  
**産業課長** 「町農業振興計画」を策定したのとやPDC Aサイクルを踏まえ、事業においてどのような検証方法が適切か検討を行い、各事業に取り入れたい。  
**求人情報の発信による雇用促進策は**  
**中村議員** 「広報かねやま」や「お知らせ版」に、求人広告を掲載できないか。  
**宮林総務課長** 特に、農業関係は、収穫時期なども多く、求人する方と働きたい方が、双方の情報ネットワークで情報交換ができる仕組みが必要であり、町の雇用対策協議会などを設立し、町全体として、雇用に則した求人情報を発信できないか考える時期にきていると思う。

また、農業だけではなく、他産業も含めた、町内企業の求人広告という観点では、伝言板スタイルであれば掲載は可能であり、雇用対策協議会などの設立ができないか、経営者懇話会や農業関係者、関係課で協議したい。  
**関連質問**  
 ・GIS（地理情報システム）の活用は  
 ・高齢者が農業を継続できる施策は  
 ・農業振興によるCCRC事業効果  
 ・「農」と福祉の連携事業  
 ・大規模圃場整備の事業費補助について  
 ・GAP推進



落花生の試験栽培

# 4名の議員が町政を問う



**【一般質問とは】**  
 年4回の定例会で行う。議員が町の行政全般について、事業執行の状況や将来の方針等について所信を質し、あるいは、報告や説明を求めるなどの政策論議の場である。  
 町議会では、質問要旨を事前に通告することとし、60分という限られた時間内で、大所高所からの建設的で簡明な質問が求められている。

## 6月定例会の初日(6/5)に次の事項について一般質問が行われました。

- ◆ 中村 忠行 議員 ①町の農業振興について
- ◆ 須藤 典夫 議員 ①さらに開かれた金山町公文書公開条例に  
②新「農業振興計画」の実施計画は  
③着任した会田副町長の抱負は
- ◆ 高橋 浩樹 議員 ①金山町職員採用試験募集要項について
- ◆ 沼澤 道也 議員 ①農業振興計画の活用について  
②小学校のあり方検討会について

※質問の順序は通告順となります。

